

人と地球にやさしい「思いやり」 エシカルは、そこから始まります

エコやリサイクル、フェアトレードなどの意味を含み、さらに大きな視野から地球全体の幸せを考える「エシカル」。その重要性に、日本で早くから着目して活動을続けるエシカル・コーディネーターの原田さとみさんに、「エシカル」とは何か、ご自身の取り組みとともにうかがいました。



ものごとの背景を 考えて行動しよう

エシカルをひとことで表すと「思いやり」。例えば、私たちはモノを買って幸せかもしれない。でもそれが、搾取や環境破壊など、何かの犠牲の上に成り立っていたとしたら、本当に幸せでしょうか。目の前のものごとだけでなく、その背景に思いをめぐらして、社会や環境にやさしいだろうか、そこにかかわる人々は平等だろうか、と考える行動することがエシカルです。

私は今、名古屋を拠点にエシカルを広める活動をしています。その軸の一つがエシカル・ファッション。オーガニック素材



タレント/エシカル・コーディネーター/
エシカル・ベネローブ株式会社代表取締役
原田さとみさん

シヨを通じて、エシカルを多くの人々にお伝えしたいと思います。「この洋服を着ると国際協力にもなるんだ」と知った人は、エシカルな消費に目覚めてもらえるかもしれないし、も



原田さんが企画するエシカル・ファッションショーから。エシカルファッションに身を包んだモデルがゆったりと歩くなか、生演奏を交えるなど趣向を凝らす
(写真提供:JICA中野なごや地球ひろば)

ethical

くだけでもムーブメントです。さらに寄付金を置いた人は、そのお金が循環して木曾川につながっているという誇りがもてます。これは、名古屋の粋な文化にぴったり。「お金を置く人ってかっこいいね」って、皆さん思うのではないのでしょうか。エシカルは「思いやり」です。から、誰にでもできます。お買い物するとき、エシカルな視点で選ぶだけでも立派なエシカルです。そうした身の回りのローカルな行動から、グローバルな変化ははじまります。私は現在の立場でできることを考えながら、これからもエシカルについての発信を続けたいですね。

つと積極的にエシカルな活動にかかわりたいと思うかもしれません。そのためには、エシカル・ファッションにデザイン性や質の良さは大切です。「誰かが助かるのなら買ってあげよう」という上から目線の消費行動は続きません。世の中にとってエシカルは正しいとわかっていても、「ほしい」と消費者の心を動かす商品でなければ、大きく広がらないでしょう。ヨーロッパに比べると浸透していない日本のエシカル事情ですが、それはまだまだ広がる余地があるということ。希望大なのです。最近の若い人に、社会問題に対する意識が高い人が多いのも心強い限りです。

私は、エシカルに向かって頑張っている姿勢があれば、それ自体もエシカルだと思えます。敷居を低くして、まずはエシカルの芽を増やさなくてはなりません。「エシカルホテル」「エシカル美容室」など、いろんなところでエシカルが息づくことを期待しています。

コップ一杯のお水に「ありがとう」の気持ち

途上国に対して行うフェアトレードですが、日本の地域格差

取材場所となったウェスティナゴヤキャッスル内のオールデイダイニング「プロニュー」では、原田さんの勧めもあり、オーガニック栽培のフェアトレードコーヒーを提供(※ただし取材時点で、現在の提供状況についてはTEL052-521-2121まで確認を)



同カフェは「コップなごや水基金」に賛同。メッセージカードを読み主旨に賛同した客の多くは、寄付金を置いて席を立つ



原田さん流 日常でできる「エシカル」なこと

●買い物から未来が変わります

お買い物は、作り手の顔の見えるもの、環境にやさしいもの、弱者にお金が回るものなどを選択します。皆が安く済むものばかり買うと、そうしたものが市場にあふれてしまいます。例えば昔ながらの製法の味噌やしょうゆなどは、高いかもしれませんが、良質のものは少量で味が引き立つので、結局は経済的で、職人や伝統を守ります。特に海外からのもの、コーヒー、チョコレート、コットン製品を買う際には、フェアトレード商品を選びたいものです。一人ひとりの消費行動が、エシカルな未来につながります。



●子育てをみつめ直しましょう

私が視察したアフリカの途上国の子どもは、工夫して何でも遊びの道具にします。モノがなくてもイキイキしている。日本では、おもちゃをたくさん与えがちですが、必要以上に与えた分だけ子どもの能力は欠けていくと感ずます。本当にいいものを大切に使う習慣をつけてあげましょう。親にとって都合のいい子どもではなく、地球からの声に耳を傾けられる子どもを育て、社会にお返しするのが親の役割だと思います。

